

学校教育目標 **一人一人が、たくましく豊かに生きる生徒の育成**

合格祈願 点が伸びるバター餅

1日、日本バター餅協会の池田さんが御来校くださり、合格の祈禱をしていただいた「点が伸びる合格祈願バター餅」を贈呈してくださいました。代表してお餅を受け取った岸野瑠奈さんから、お礼の言葉として「このバター餅を力にして粘り強く入試に挑んでいきます。」という言葉が述べられました。お餅は、全員が良い結果を残して、みんなで「ニコニコ」できるよう、一人2個ずついただきました。3年生は、点数が更に伸びることを強く願いながら美味しくいただきました。



〈代表してバター餅を受け取る瑠奈さん〉



〈2個ずついただき、みんなニコニコ〉



〈こんなに伸びました！〉

第3回学校運営協議会

6日、今年度最後となる第3回学校運営協議会が行われました。委員の皆様には5校時の授業を参観していただき、その後、学校運営について「知育」、「徳育」、「体育・健康教育」、「ふるさと・キャリア教育」の4項目の観点からご審議いただきました。県の学習状況調査の数値の伸びや学校生活アンケートの結果から、特に「知育」と「ふるさと・キャリア教育」について高い評価をいただきました。いただいたご意見は、この後の学校運営に活かしていきたいと思えます。

社会の変化に伴って、学校や家庭が抱える課題が多岐に渡り、複雑になってきています。地域ぐるみで子どもの成長を願い、連携していくことを確認しました。



〈「三平方の定理」を学ぶ3年生〉



〈「鎌倉幕府滅亡後の政治」、タブレットを活用して〉

子どもの発達を支えるために～レジリエンスを育てる

パート1

人生において逆境や困難を避けることはできませんし、日常生活では様々なトラブルやストレスがあります。近年、逆境から立ち直り、状況に対応する能力であるレジリエンスが注目されています。ストレス耐性や傷つきにくさなどの要素を養いつつ、子どもたちの課題に対する対処能力を向上させることが期待されています。将来、たくましく豊かに生きていってほしいことを願い、レジリエンスを育てることについて掲載します。参考にいただければ幸いです。

1. レジリエンスを育成するために大切なこと

(1) 自己効力感を高める

〈具体的な方法〉

① 小さな目標の達成を繰り返し経験させる

子ども自身が設定した小さな目標を達成することで、「自分ならやればできる」という信念が育まれます。他者と比較せずに、結果ではなく過程を褒めることが大切。適度に支援しながら、スモールステップで目標達成を繰り返させ、成功体験を味わわせることで自立する力が養われます。

② 励ます

親や教師からの肯定的なフィードバックは、子どもの自信を強化します。

(2) 自尊感情を高める

〈具体的な方法〉

① レジリエンス教育が自尊感情や自己効力感を向上させることが示されています。

子どもの話をしっかり聞き、温かい口調で返してあげるなど、子どもの気持ちに耳を傾けることがレジリエンスの基礎を作る重要な要素。

② 子どもたちが自分の特性や現状を把握し、自分で強い意思決定ができるように支援することが大切。

③ 評価を有効に行う。活動の目標を明確にし、自己評価するような活動が有効。さらに、相互評価の視点を明確にし、他者の意見を尊重して、評価することも重要。これにより、子どもたちが互いの良さを認め合う力が強化され、自尊感情が高まる。

(3) 思考パターンを変化させる

〈具体的な方法〉

① 捉え方をサポートする。失敗体験や困難な状況に直面した時、それを否定的な出来事にとらえず、成長の機会や学びの経験にとらえるような声かけを行う。子どもが問題に対して困難さばかりに焦点を当てがちな場合、親や教師が「それは大変だったね、でもその経験から何を学んだかな？」といった問いかけをすることで、子ども自身の思考の枠組みを変化させ、問題を解決するための新たな視点を提供することができる。思考パターンをポジティブな方向に誘導することで、逆境に強い心を育てることができる。

来週の予定



○ 2月13日 (火) 午後6時 P T A 常任委員会

今年度の活動を振り返り、来年度の活動について話し合います。

○ 2月17日 (土) 「スノーキャンドルストリートinあに」

阿仁合駅周辺を雪とろうそくを使ってスノーキャンドルでつなぐ地域参加型のイベントです。市内の中学校4校が参加します。本校からもボランティアを募って有志が参加します。夜の冬花火のもとでろうそくが灯された雪像は、きっと素敵に輝いて見えることでしょう。